

図-6.10.1.25(2) 砂浜の分布と形状調査位置図 (法線3~13)

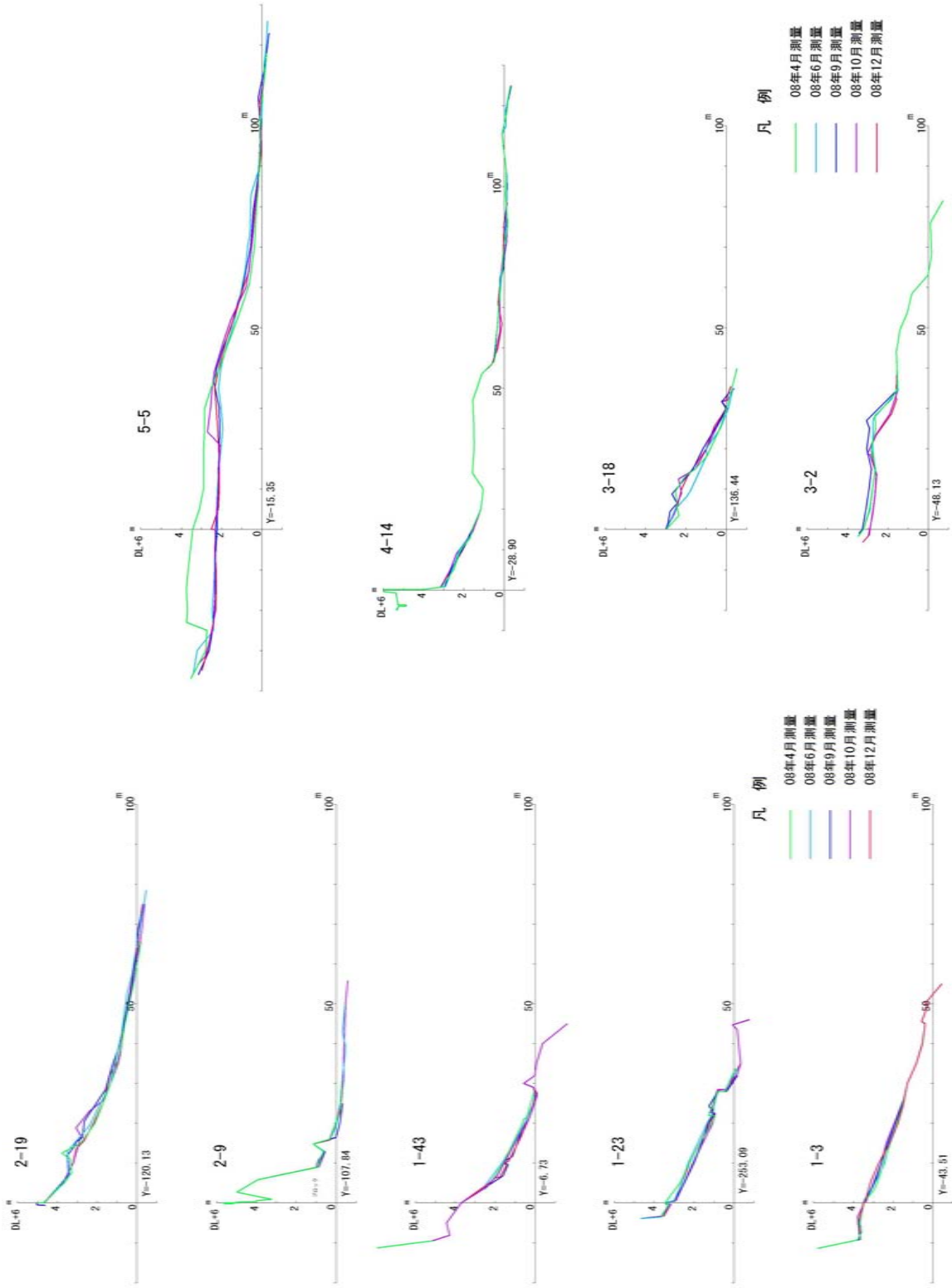


圖-6.10.1.26(1) 橫斷測量結果

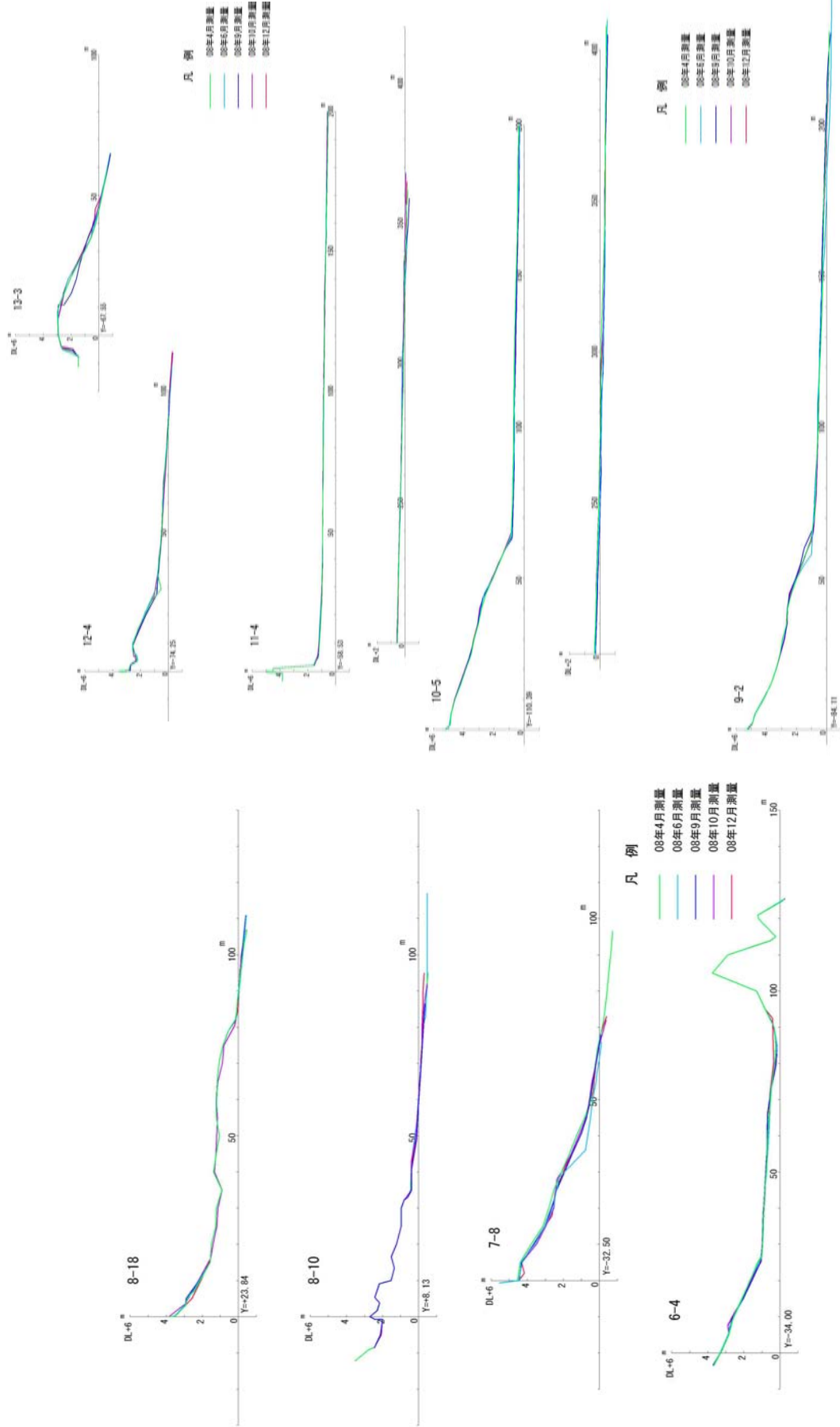


圖-6.10.1.26(2) 橫斷測量結果

b) 地盤高（深淺測量）

(ア) 海底地形

深淺測量の成果として得られた等深線図を図-6. 10. 1. 27に示します。

宜野座村松田から辺野古崎においては、海岸から 1～1.5km にリーフがみられ、礁湖を形成しています。その最浅部は最干潮時には海面から干出します。リーフの外洋側は非常に複雑な礁地形となっており、水深 40m まで急斜面を形成しています。また、名護市一宜野座村界付近には、リーフを切るように水深 10m の谷地形がみられます。礁湖には、サンゴ・岩などにより、比高が小さいながら小規模で複雑な地形が広く分布しています。一方、潟原、久志及び辺野古漁港の前面には、平坦な干潟が形成されています。

大浦湾においては、湾口ほぼ中央にリーフが形成されており、その最浅部は局部的に 0m よりも浅くなっています。この背後(湾内)にも、10m 等深線で囲まれる非常に複雑な地形が存在し、両者を合わせた規模は、湾口方向に 1.5km、湾奥方向に 2km の幅を持ちます。また、安部崎から汀間川にかけても、距岸 0.5km 付近まで、リーフや岩礁がみられ、一部が干出します。一方、辺野古崎側ではキャンプ・シュワブ内の大浦ビーチ付近に水深 5m の張り出しがみられるほかは、海岸線付近から急斜面となって大浦湾に進入する海底谷へと至っています。海底谷の深さは 69m で海釜状の地形を呈しており、水深 5m の等深線で挟まれる最も狭い幅は約 400m です。この谷は、辺野古側の海岸線と平行に大浦湾奥の二見付近まで、約 4km の長さを持っています。大浦湾の北側(安部崎側)には、もう 1 本の比較的緩やかな海底谷が入り込んでいますが、前述の谷のような海釜地形を持たず、水深 25m の緩やかな高まりによって外洋と区分されます。これらの谷地形の底は、緩やかで比較的平坦な地形となっています。汀間漁港から瀬嵩を経て大浦に至る海岸には、岩礁やサンゴ礁が存在し、比高は小さいですが、複雑な地形となっています。最も湾奥の大浦川及び楚久前面には、砂泥が干潟を形成しています。

(イ) 水深変化

深淺測量は常に動いている船で測量するため、同一地点を測定してその結果を比較することは不可能であることから、1 地点のみならず周辺の傾向も勘案して、侵食堆積傾向（水深変化）がみられる範囲を図-6. 10. 1. 28に示すとおり整理しました。

台風時前（平成 20 年 6 月実施）と台風時後 1 回目（平成 20 年 9 月実施）を比較すると、松田から辺野古崎に至る礁湖では堆積傾向はわずかで、侵食傾向が広くみられました。辺野古崎付近及びリーフ上は岩礁・サンゴ礁が広く分布するため、変化の範囲は小さいものでした。侵食域、堆積域ともに、リーフに

平行に東西に細長く分布しており、幅がある程度広い分布域は久志及び潟原の湾状地形付近でのみみられました。変化量は一部に 20cm 程度の変化がみられますが、ほとんどが 10cm 以下で全般に小さな値でした。

大浦湾内では、水深が 20m 以深の谷状地形において広く堆積傾向がみられました。変化量は 20cm 程度で、侵食域にみられる変化量よりも大きい傾向にありました。カヌチャから瀬嵩に至る水深 10m 以浅の海域では、変化量 10～20cm の侵食域が広く分布していました。大浦湾奥では堆積域と侵食域が小規模に散在していますが、水深変化は局部的で大きな土砂の移動は認められません。

変化量は、辺野古前面の礁湖内に比べて大浦湾内の方が大きい傾向にありました。

台風時後 1 回目（平成 20 年 9 月実施）と台風時後 2 回目（平成 20 年 11 月実施）を比較すると、全体的に堆積傾向が強く、大浦湾で侵食傾向にあるのは比較的浅い箇所のみで、水深 30m 以深では、ほぼ全域が堆積傾向にありました。堆積の厚さはほとんどが 20cm 以下ですが、大浦湾奥にまで侵入する海底谷の谷口付近（水深 20～40m の等深線で表現される谷状地形）では 20cm 程度と厚い堆積域がみられました。湾の北側に侵入するもう 1 本の谷についても、ほぼ同様の傾向であり、水深 20m 以深において堆積傾向が認められました。一方、10m 以浅の浅海域における変化量は侵食、堆積ともにほとんどが 10cm 以下でした。

松田から辺野古崎に至る礁湖では、松田から久志の地先においては、侵食域と堆積域が交互に現れましたが、豊原地先では堆積域が広く分布していました。この区域で侵食域が形成されるのは、海岸線付近と辺野古漁港付近の一部でした。これらの変化量はおおむね 10cm 以下で大浦湾に比べて小さな値でした。

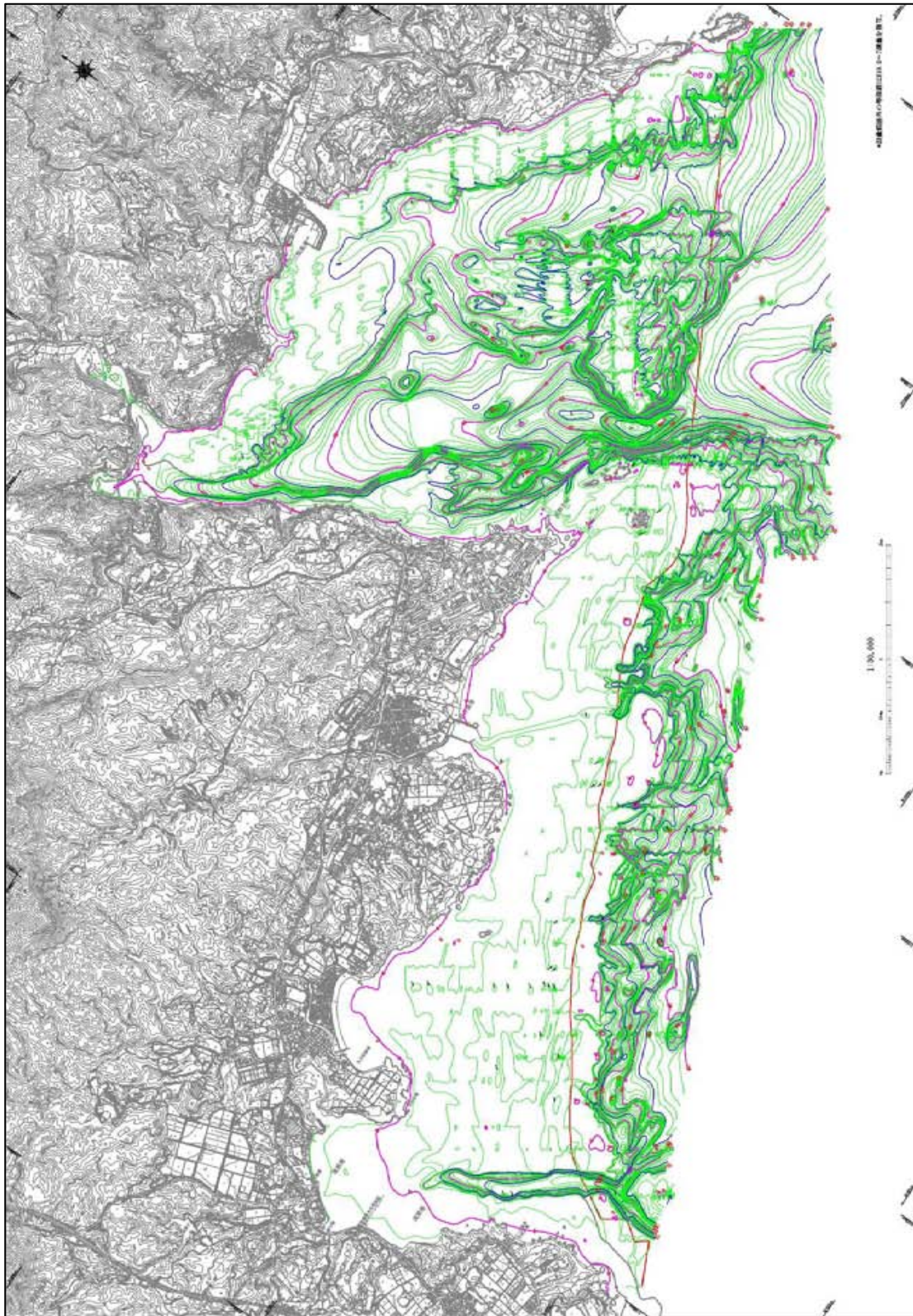


図-6.10.1.27(1) 等深線図(台風時前：平成20年6月測量)

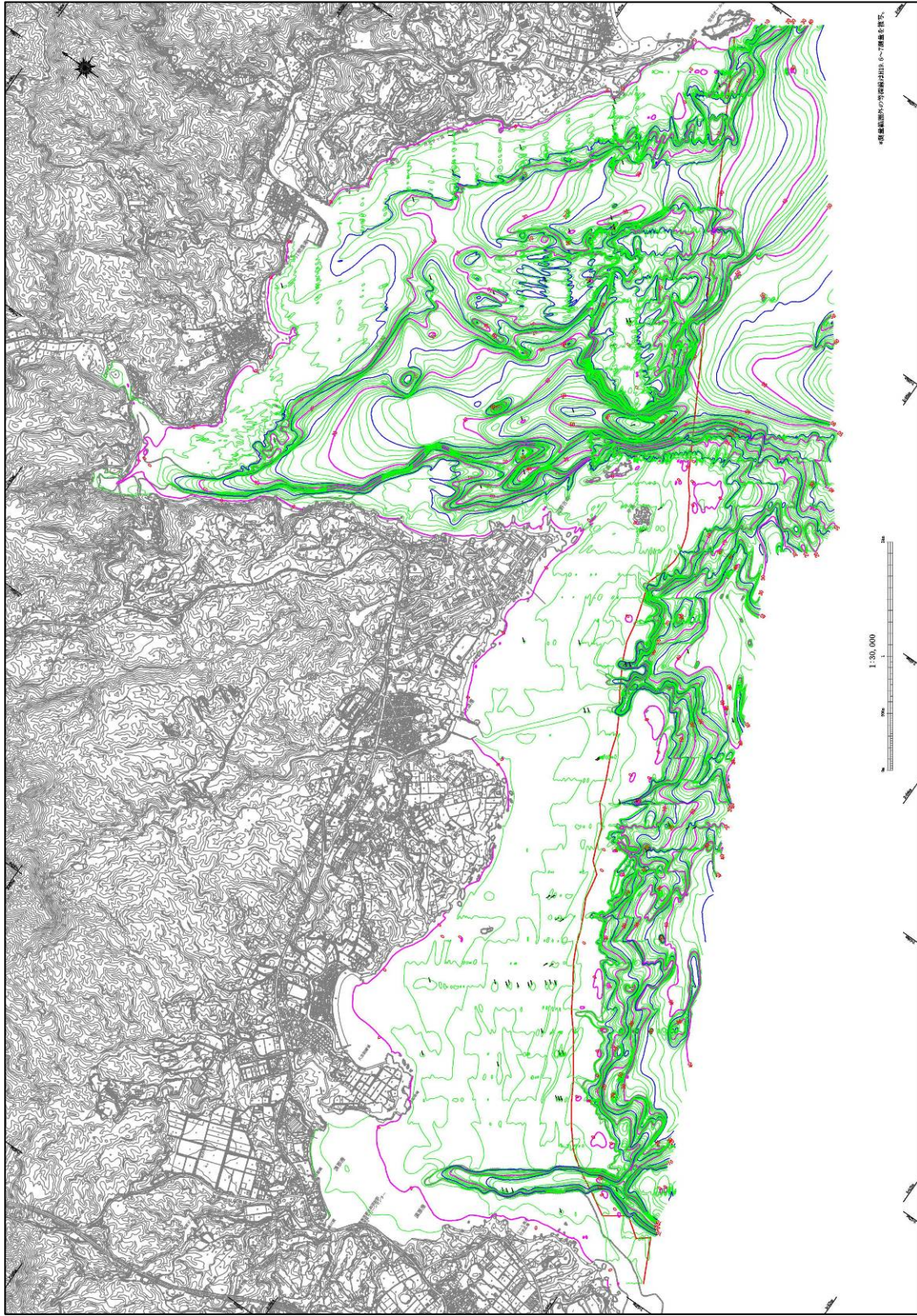
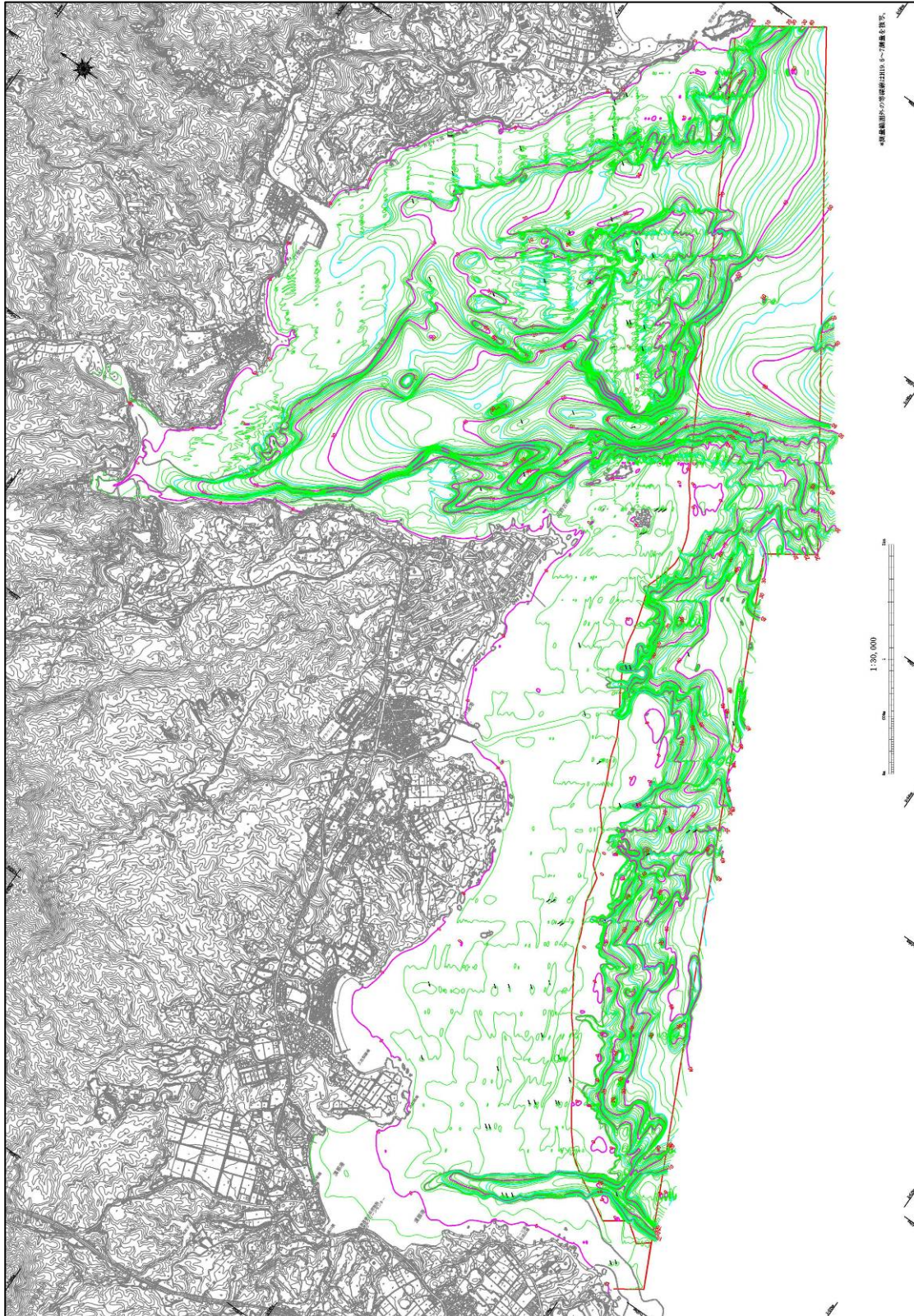


図-6.10.1.27(2) 等深線図(台風時後1回目：平成20年9月測量)



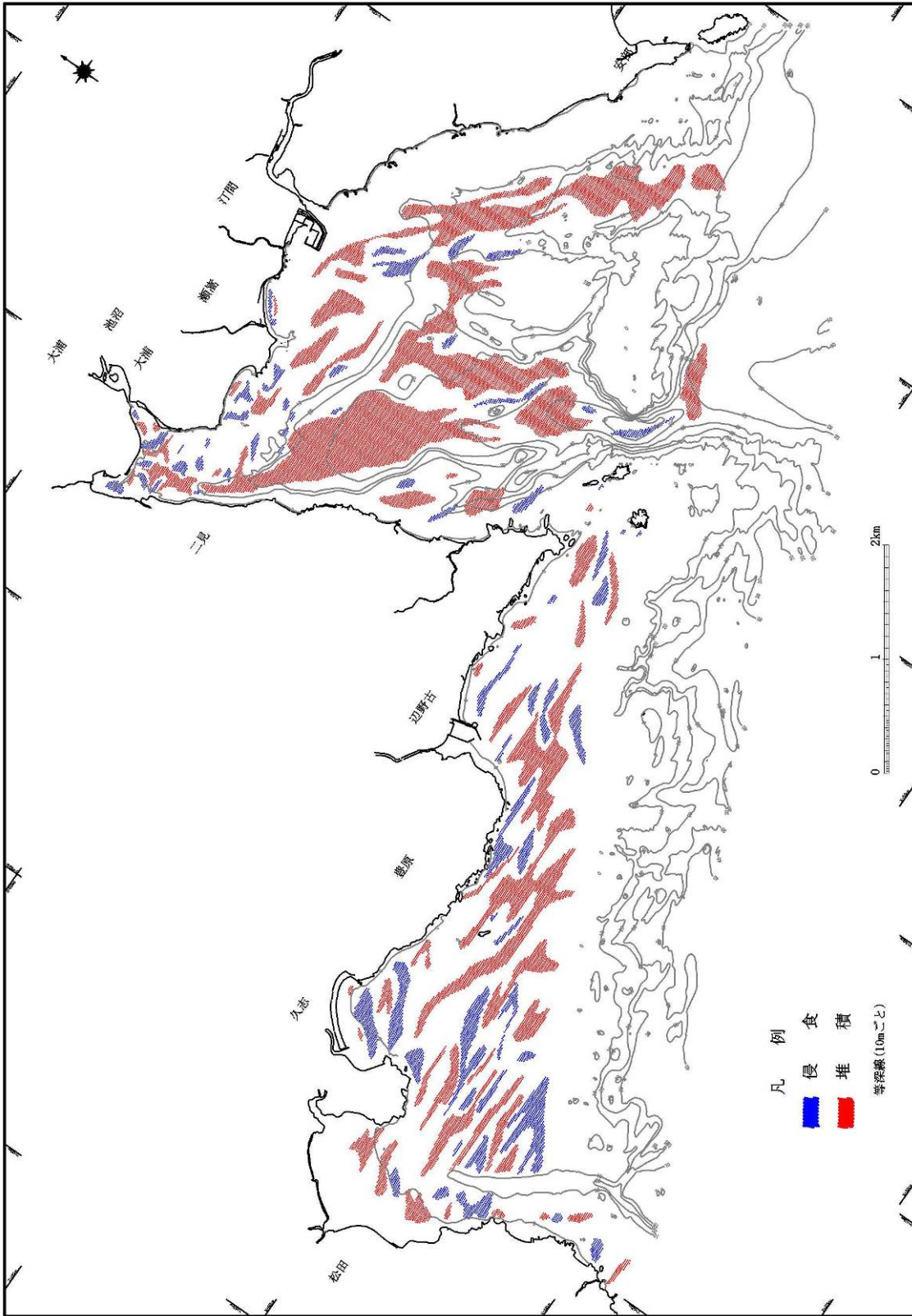


図-6.10.1.28(2) 侵食堆積傾向図 (台風時後1回目から2回目までの水深変化)